



## 大西元会長をしのぶ

会 長  
小 林 宏 治

元本会会長大西定彦氏が去る4月28日御逝去されました。ここに慎んで会員の皆様にご報告申し上げますと同時に、大西さんのご冥福を心からお祈り申し上げたいと存じます。

大西さんは、常にわが国産業界のリーダーシップをとって来られた方であり、これからもまだまだ引続いて御活躍を願わねばならぬ人であっただけに、日本としてまことに惜しい人を失ったものと痛感する次第です。

大西さんは、私の大先輩に当る人ですが、私と大西さんとの直接の出合いは戦争中のことでした。当時、私共の会社は、ソナーの開発生産をやっていましたが、海軍の要求はまことにぼう大で、一社だけでは不可能で、日立製作所にも下命がありました。その時の日立側の責任者が大西さんだったわけで、これをご縁にいっしょに仕事をさせていただいたわけです。

戦後、新しくエレクトロニクスという分野が誕生する気運が生まれ、私共が、この動勢にどう対処すべきかといういろいろ苦慮しつつあった時、大西さんは、自ら陣頭にたたれ、将来のエレクトロニクスの進路を洞察し、日立の進むべき道の方向づけに努力されておられたことを、強く印象づけられました。

大西さんは、頭脳明晰、しかもフレキシブルで、つねに進歩的な開拓者精神にみちみちていた人だったと感じております。

わが国の電子工業界の今日の世界的隆盛あるのも、大西さんをはじめとする諸先輩の方々が、自由競争の原則をつらぬいて、互いに切磋しあって来た結果であると考えます。

大西さんが、第一線をしりぞかれたあとも、私は、いろいろなパーティの席上や、旅行の列車中などで度々お目にかかる機会を得ていましたが、最近では、ゴルフに特にご熱心になっておられ、沼津にゴルフ場をつくりたいとのことで、勧誘をいただいたことなどもありました。

まことに心豊かな方であって、今後とも永くご指導を得られるものと期待しておりましたのに、この度の訃報に接し、まことに残念に存ずる次第です。

OR学会の初期の会長として、本会の発展の基礎づくりに多大な貢献をなされたことは、ご存じの通りであります。本会をさらに発展させることが大西さんの霊にこたえる道であると信じ、会員諸氏とともに一層の努力を致すことを誓いたいと存じます。

ここに慎しんで哀悼の意を表します。